

理工学部

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

理工学部では2019年度に大幅なカリキュラム改定がおこなわれ、2020年度はその2年目に当たる。2019年度に引き続き、適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認をおこなっていただきたい。

教育課程・内容については、2019年度からの大幅なカリキュラム改定により、コース制を設けた教育課程の体系化、選択科目の履修モデルを設ける等の対応をし、少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBLを充実させる等、適切に提供がおこなわれている。また、GPおよびGPA、場合によりGPTを算出して成績評価をきめ細かくおこなっていること、卒業研究において成果に不足が見られる場合は再発表を課す等、学生の学習成果の把握、評価は適切におこなわれている。とりわけ2020年は、これまで新型コロナ禍により生じた不測の事態に、迅速にインターネット環境を利用して学生目線での対応がおこなわれたことが高く評価される。引き続きの努力を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度はコロナ禍対応に終始せざるを得ない状況であったが、特に、適切にカリキュラムが運用されているかどうかについての確認については、留級生などの数から判断するに、特段の変化はないか、寧ろ減少したと言える。しかしながら他の観点も交えて今後も点検を行いたい。

2021年度は前年度の経験を踏まえ、本来の学部学科におけるPDCAサイクルを回していくと共に、学部に関連する諸課題のうち、量化される情報については積極的に活用を検討しながら、引き続き点検と施策の検討を行う。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

理工学部についての2020年度大学評価委員会の評価結果では、2019年度に実施された大幅なカリキュラム改革が2020年度には年度進行で2年目を迎えることから、改定されたカリキュラムが適切に運用されているかの確認が求められていた。これに対して、留級率などの定量的な指標を基に評価していることが確認できた。

理工学部においては、2020年度がコロナ禍対応に終始せざるを得ない状況であったにもかかわらず、留級生数を増やさず、カリキュラムの運用上丁寧な学生対応があったことは評価できる。PDCAサイクルを回しながら、評価指標や施策などを探っていくとのことであり、次年度以降の成果に期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

・対外的に公表もしている教育課程の編成・実施方針に

基づき、体系化されて配置された科目に対し、学部として適切な教員を人選し、各課程に相応しい教育内容を提供している。

・新カリキュラムは2019年度から運用を開始しており、2021年度は3年次生までが新カリキュラムの対象となる。少なくとも今年度前半は授業期間中も新型コロナウイルス禍対応が優先事項とならざるを得ない状況であり、平常時と同一環境・状況ではないが、上記新カリキュラムが適切に運用されていることを、対象年次学生の成績指標などを用いてウォッチしたい。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・理工学部生のための履修の手引き (hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供)

・理工学部カリキュラム等紹介 <https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/>

・カリキュラムマップ・ツリー (上記理工学部のHPにリンク)

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。一部の学科では、コースごとにカリキュラムツリーを作成している。創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行い、また公開している。</p> <p>新型コロナウイルス禍対応も兼ね、学生がすべてウェブ上で情報を得ることができるよう、理念・目的、履修の手引き、時間割、カリキュラムマップ・ツリー、ウェブシラバスへのリンクなどを hoppii や理工学部等の HP に掲載した。これは社会に対する情報公開の一環に位置づけることもできる。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供） 理工学部カリキュラム等の web 紹介 https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ 理工学部の教育目標・4つのポリシーなど https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/ 	
<p>③ 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、教養科目全体を語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し体系化している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供） 理工学部の教育課程の特色の web 紹介 https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/tokushoku/ 	
<p>④ 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>・初年次教育は教養科目の中で主に実施し、また付属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施している。特に2020年度は国際高校の高大連携科目「大学の学問にふれる」に対して講師を選任し、学部として参加を決めた（授業実施は2021年度中）。また付属校推薦入試、指定校推薦入試、およびスポーツ推薦入試の進学予定者に入学前の web 学習プログラム（以下、入学前教育と称す）を設け、受講を課している。これに加えて、理工学部新入生全員に対し、数学・理科におけるプレースメントテスト、英語については TOEIC テストを実施し、それらの結果を用いて学力補強の必要性が認められる新入生に対してリメディアル科目（入門数学、入門物理学）の履修・受講推奨を、また英語については能力別クラス分けを行っている。ここで、2020年度入学生については、新型コロナウイルス禍のために、TOEIC は web 受験させることに急遽変更し、結果として英語のクラス分けは実施できたが、集合開催しか選べない数学・理科のプレースメントテストは実施できなかった。しかしながら初年次教育の重要な一面、学力の差異を次年次に持ち越させない要素を重視し、前例はなかったが、これまでの学部としての経験も踏まえて、数学・物理学の学力が不足がちと見られる新入生に対してリメディアル科目の履修・受講推奨を行い、最大限配慮した。なお、2021年度については TOEIC ならびプレースメントテストが実施でき、本来の状況に近い運営ができた（2021年4月初旬時点）。</p> <p>・一部の学科では1年次必修のコンピュータリテラシー科目にて、小金井図書館による利用方法の講義を1コマ行っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き（hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供） 入学前教育の実施報告（2021年6月中旬の入手を予定） 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2020年度第15回学部長会議資料（国際高校関連）	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>・2010年度から国際化に対応するためのSA(Study Abroad)プログラムを継続的に実施している(2020年度はコロナ禍のため実施取りやめ)。SAについては英語能力向上も企図した奨学金制度がある。</p> <p>・小金井キャンパスにおいてグローバルオープン科目を開設している。</p> <p>・留学生については、留学生ガイダンスや留学生歓迎会を例年行っている。例外的に2020年度はコロナ禍のため実施できなかったが、引き続き関係部局(小金井事務部学務課グローバル担当)と連携してサポートを行う。なお2021年度はオンラインイベントとして実施できたことを付記する。</p>	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き(hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供)</p> <p>・小金井事務部学務課グローバル担当とのメール(2021年度留学生ガイダンス実施関連)</p>	
④学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育では、3、4年次に対してインターンシップを積極的に実施している。また、一部のPBLにおいて、年度によってばらつきはあるが、他大学や企業と連携して実施したことも過去にある。多くのゼミ活動においては、企業や大学との共同研究の参加、学会等で発表を通じて、実社会での活動を行っている。さらに、一部のゼミにおいては、チームで研究を行うことにより、コミュニケーション能力を養っている。</p>	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き(hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供)</p> <p>・理系学部研究室ガイド</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制及び方法】※簡条書きで記入。</p> <p>・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している(2020年度からウェブ版も公開)。</p> <p>・学科主任や実験・実習、演習担当教員による個別試問を含めた十分な履修指導を行っている。</p> <p>・各学科においてオフィス・アワーを周知し、学生の履修相談に対応している。</p> <p>・低学年(1、2年生)に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。</p> <p>・下級生に対する上級生の成績優秀者によるチューター制度を以前から設けている。本制度は2019年度以降、全学のラーニングサポーター制度として取り込まれ、継続的に実施している。</p> <p>・一部学科では、1年生に対して少人数グループによるプレゼミ制度を設けてきめ細かい指導を行っている。</p> <p>・3年次(春学期もしくは秋学期)、4年次では、全学生のゼミ配属が行われ、少人数かつ緻密な指導を行っている。</p> <p>・コロナ禍対応として、新入生の履修登録ケア・不安解消・安否確認を目的としたメールベースの指導、場合によっては学生相談室への接続等を行っている。</p>	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き(hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供)</p> <p>・理工学部教授会資料</p> <p>・学部執行部から学科主任への新入生安否確認依頼メール</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・科目によってはスキル向上のため、少人数クラスとし必修科目としている。
- ・1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBL等を充実させ専門分野のセンスを養っている。コロナ禍での実験科目の運用については教員側の動画作成等、学習資料を充実させる方向で実施した。
- ・オフィス・アワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導も行っている。
- ・専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個人ごとに理解度をチェックし密な指導を行っている。
- ・3年次（春学期もしくは秋学期）、4年次では、全学生をゼミに配属し、少人数かつ密な指導を行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）
- ・各学科ガイダンス資料

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

- ・学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。
- ・実験については、毎週レポートの提出を課し、予習・復習時間が平均化するようにしている（2019年度）。2020年度については、毎週の提出は緩和している（実験科目のオンライン化による）。
- ・シラバスに予習復習時間を記述し、学生に自覚を促している。
- ・ゼミ活動においては、学生に実験や勉学のための滞在スペースを与え、学校にて勉学を行う環境を整えている（2019年度）。2020年度については、新型コロナウイルス禍対応のため、この限りではないが予習復習時間は例年に比べ自宅等取り易くなっている状況にあると推察できる。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）
- ・ウェブシラバス(<http://syllabus.hosei.ac.jp>)
- ・各学科ガイダンス資料

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBLを必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。
- ・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。
- ・専門科目の実験については、一部の学科において学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度をチェックし緻密な指導を行っている。
- ・3年次（春学期もしくは秋学期）、4年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ緻密な指導を行っている。
- ・一部の学科のゼミ活動においては、企業との共同研究や学会発表を行うことにより、身に着けた知識を実践的に役立っている（コロナ禍により2020年度は実施見合わせの場合あり）。
- ・一部の学科を除き全教員によるオムニバス形式による学科ごとの専門分野の全体を理解するための必修科目を用意している。
- ・一部の学科では複数のゲストスピーカーによる実践的知識と経験を授ける授業を行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑤それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの授業形態に応じて、講義、語学、演習・実験等において、1授業あたりの学生数が配慮されている。プログラミングなどの必修科目については過剰な人数にならないように2クラスとしている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に関係する演習・実験科目等で1クラスの学生数の上限を概ね設けている。 卒業研究等のゼミ科目においては10人前後となるように考慮している。 留級者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応を行っている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き (hoppii のHONDANA、1年生には冊子体も提供) 理工学部教授会資料 (成績不振者対応関連) 	
⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験科目のオンライン教育に関して、器具・装置等を使った教材動画を教員らが協力の上作成し、受講生にはそれを視聴させてポイントを理解させた上で、実験データを仮想的に提供して分析・レポートを書かせるという方式など、できるだけの工夫の下で実施した。 2020年度春学期においては、対面定期試験が実施できず、レポート提出等による成績評価を行う科目が多数に及ぶことを想定し、点数で評価の段階が変わる12段階の成績評価を必ずしも必須としないことを学部として決定し実施した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績の評価方法、評価基準についてはWebシラバスに明記し厳格な運用を行っている。 成績評価に関してはGP及びGPA、場合によりGPTを算出している。 成績評価について全体のフィードバックを行い評価基準の共通認識を高めている。 成績公表後一定期間、学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。 授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。 卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。また、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付けている。 例年、理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。ただし、2020年度はコロナ禍もあり実施は見合わせた。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 ウェブシラバス (http://syllabus.hosei.ac.jp) 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常時は定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施し、教員と学生の意識を一致させている。ただしコロナ禍中にあっては、対面での定期試験は他の手段で代替した(2020年春学期・秋学期)。 一部の学科では、専門科目の実験については、学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度を把握している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>・3年次（春学期もしくは秋学期）、4年次では、全学生がゼミに配属され、担当教員が日常的に個別に指導等を行い正確な成績を評価している。</p> <p>・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会・審査会（学科により名称等が異なる）を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。一部学科では、不十分であると判断された場合の再審査会も設けている。</p> <p>・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き（hoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）</p>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・各学科に就職担当を置いている。</p> <p>・各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。</p> <p>・就職・進学情報は大学院専攻主任会議でも共有している。</p> <p>・各学科でも企業訪問を受け付け、状況の把握に努めるとともに、学生に対する紹介などを行っている。</p> <p>・3、4年次での全員学生を対象として少人数ゼミによる教育の中で、就職活動についても指導、情報交換を行っている。場合によっては企業の紹介等も行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布を取り分析している。</p> <p>・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握し、教授会メンバーが自学科・学部全体のデータを閲覧・分析・可視化することができるようにデスクネッツ上に配置した。</p> <p>・英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。なお2020年度4月の TOEIC テストは新型コロナウイルス禍の影響もあり、集合開催はできなかったが、急遽ウェブ試験に切り替えることができ、実施できた（1.1④参照）。2021年度は通常の実施ができています。</p> <p>・新入生に対する成績分布も科目に依るがある程度の把握が可能となっている。これはプレースメントテスト（数学・理科）や TOEIC の結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしていることに繋がっている（2019年度）。なお2020年度4月のプレースメントテストは新型コロナウイルス禍のため実施できなかったが、リメディアル教育のための受講候補者選定については、これまでの経験と入学前教育の結果を踏まえて実施した（1.1④参照）。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部教授会資料、執行部会議資料</p> <p>・KLAC 英語部会教員とのメール</p>	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>以下について、指標の設定は一部を除いて基本的に得点であるが、特記事項等で把握することもある。</p> <p>・入学段階での学生の基礎学力を測るための指標として、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接結果等から、理系科目および英語力について十分な基礎的素養を持つことの測定をしている。また特に英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。</p> <p>・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、成績により個別にリメディアル科目の受講を促している（2020年度はコロナ禍の影響により別の方法を取った）。</p> <p>・一部の学科の専門科目の実験については、個人個人に試問を行い一人ひとりの理解状況を把握している。</p> <p>・試験の成績のみでなく、研究成果の発表等を学習成果の一つの指標としている学科もある（PBL）。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・卒業研究について、すべての学科で発表会（審査会）を行っているが、一部の学科では学科教員全員参加の評価の場で、学習成果に不足が見られる学生に対して再発表を課して、充実を図っている。</p> <p>・3, 4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果を正確に把握している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部生のための履修の手引き（hoppii のHONDANA、1年生には冊子体も提供）</p> <p>・理工学部執行部会議資料、教授会資料</p>	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用を行っている。</p> <p>・学生の学習成果を測定するためGPAや分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。</p> <p>・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。</p> <p>・英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋にTOEICテストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。</p> <p>・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。</p> <p>・3, 4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果（学会発表等）を正確に把握している。</p> <p>・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部執行部会議資料、教授会資料、学科教室会議資料</p>	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。</p> <p>・各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、学部執行部で検討し執行部会議等で情報共有を行っている。</p> <p>・付属校推薦入試、指定校推薦入試、スポーツ推薦入試等での入学予定者については入学前にオンライン学習を課しており、進捗状況や得点等を可視化し把握している。</p> <p>・プレースメントテストについては点数データを把握し、本人へのフィードバックおよびリメディアル教育に活用している。</p> <p>・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。</p>	
<p>【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・理工学部執行部会議資料、教授会資料</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・プレースメントテスト結果の集計（2020年度はコロナ禍により見送り、2021年度は実施済）</p> <p>・GPAの入試方式別分布の解析</p> <p>・TOEIC スコアの集計解析</p> <p>・教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築および教室会議での学科毎の測定と対策の検討</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き (hoppii の HONDANA、1 年生には冊子体も提供) ・デスクネット上の個人情報削除後の GPA データ、留級率データ	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。 ・授業改善アンケートは記名式にして回答の信憑性を向上させるようにしている（ただし、教員には個人名は公表されない）	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバスチェック資料	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・教育課程・学習成果についての必要な事項は的確に実施されており、PDCA サイクルが回っている。 ・学部内委員会である、FD 委員会、カリキュラム委員会、研究推進委員会にて現状把握と分析、さらに対策案の検討を行っている。 ・旧カリキュラム・2019 年度スタートの新カリキュラムでの留級率の推移の計測を継続している。 ・入学経路別の新入生の初年度末累積 GPA のデータ・各学年の留級率データを蓄積し、学科主任等、教員に対して閲覧環境を提供している。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・教員による授業相互参観は学科により実施の程度にばらつきがあるので、より適正に実施する（ただし新型コロナウイルス禍の終息状況を勘案しなければならない）。 ・編入学生の受け入れに関する検討が必要。	

【この基準の大学評価】

理工学部は、カリキュラムの流れや体系を可視化するとともに、コース制を設けて履修モデルを提示することで学びの体系化を図っており、教員配置も適切に行われている。早期に入学が決まる高校生に対して入学経路に応じた入学前教育を実施するとともに、入学後のプレースメントテストによって要学力補強者に対するリメディアル科目の履修を推奨するなど、スムーズな高大接続に配慮している。低学年生に対するクラス担任制度やオフィスアワーの利用など履修指導が適切に行われている。

成績優秀上級生による下級生へのチューター制度の継続や重要科目における少人数クラスの実施および必修科目化、3、4 年次生のゼミ配属による少人数指導により効果的な教育が実施されている。COVID-19 への対応として、実験科目のオンライン化のための教材動画を作成するなどの工夫したことは高く評価できる。

成績評価方法やその基準は Web シラバス上に明記され、相互授業参観を組織的に行ったり、GP や GPA、GPT といった指標を教員間で共有することで自律的に厳格に運用されていることは高く評価できる。

学生の学習成果の把握は学生の GPA を学科別に分析しデスクネット上で可視化・共有している。他に学習成果については定量的な調査を今後行っていくことが望まれる。3、4 年次では少人数のゼミにより学生全員の学習成果や研究成果を把

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

握している。その適切性については、教室会議、執行部会議、教授会の各レベルで現状解析と改善対策の検討が行われている。教育課程および学習成果についてはPDCAサイクルが的確に回っていると認められる。
成績評価に関して、一部誤解を招く表記があったことから、次年度以降表記方法に十分留意する必要がある。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> FD活動については執行部が主導のもと各学科が実行主体となり推進している。 <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学科で授業相互参観を行っている。学部全体として公開している科目数は650科目であり、兼任講師の科目についても含まれている。複数教員が協力して行っている科目についても、授業参観の要素があるものについて把握した。コロナ禍中において授業動画を収録している場合もあり、これらも授業参観の対象とした。今年度は31科目を実施した。 研究活動状況は全学の研究者データベースを利用して公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。 学生モニター制度を活用し、個別教員に対する意見があった場合、執行部から当該教員に改善点を連絡している。2020年度は実施を見合わせたが、2021年度は実施を予定している。 FD推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。 理工学部FD委員会の検討結果は教授会で報告し議論を行い意識の共有を図っている。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互の研究活動を把握し、共同研究の芽を育てるなどを目的として、2019年度から小金井3学部で開催を開始した小金井研究交流セミナーに参加し発表やディスカッションを行っている。コロナ禍の影響により、2020年度はインターネット上での開催となった。 お互いの研究成果を客観的に把握できるようにするために、研究者データベースの更新を促している。 学会等での受賞、表彰について、教授会にて紹介している。 平常時では、地域向けの公開イベントを開催している。また、スポーツ交流イベントに参加している。2020年度はコロナ禍のため未実施となっている。 理系同窓会と連携し、企業、教員、学生との交流イベントを開催し、連携を促進した（小金井祭での研究室紹介）。ただし2020年度はコロナ禍のため未実施となっている。 理系同窓会連携委員会を設置しており、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図っている。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政科学技術フォーラムへの参加（生命科学部・情報科学部との共同イベント） <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 法政科学技術フォーラム案内 (https://www.hosei.ac.jp/scitech/) 小金井祭での研究室紹介案内 (https://koganeisai.com/event/laboratory/) 	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の技法に関するという意味合いでのFD活動としては、対面ではできなくなった実験科目における授業の動画を用いた学習資料の作成と授業運営を行った。 オンライン授業における録画を教員による相互授業参観の対象とした。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は年度毎の実施件数のばらつきはあるが確実に実施されている。 ・理工学部FD委員会を設置し状況の分析や対策を検討する体制が確立している。 ・理系同窓会との連携強化を図っている。 ・小金井3学部間で教員間の共同研究等の芽吹きを意図したイベント等を共同開催している。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は学科により実施の程度にばらつきがあるので、より適正に実施する（ただし新型コロナウイルス禍の終息状況もある程度は勘案しなければならない）。 	

【この基準の大学評価】

理工学部におけるFD活動は、執行部が主導しFD委員会を通じて各学科が主体となって推進されている。2020年度はコロナ禍中ながら650科目中31科目について授業相互参観が行われた。FD活動に関しては、学内外での各教員の活動内容の記録やそれらを教員間で共有する仕組みづくりを今後設けていくことが望まれる。研究活動や社会貢献の諸活動の活性化を目的とし、小金井校地3学部共催の小金井研究交流セミナーが継続的に開催されており、評価できる。理系同窓会連携委員会を設置して、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図っている点も評価できる。COVID-19への対応・対策として、本来対面実施がふさわしい実験科目について、動画を効果的に用いる工夫があったことも評価できる。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

学部独自に行った取り組みとしては、コロナ禍中にある学生のメンタル面のケアとサポートに絡んで、小金井学生相談室から、教授会メンバーに対して、今後の学生への対応の参考にさせていただくべく、講演をして頂く機会を持った（2021年4月23日）。

【根拠資料】

・小金井学生相談室と執行部とのメール

【この基準の大学評価】

理工学部は、学生のメンタルケアの一環として、教授会メンバーに対して小金井学生相談室による講演会を実施するなど積極的な対応があった。理工系の科目、特に演習や実験などをオンライン化するのはなかなか難しい中、器具や装置等を使った教材動画を作成し受講生に視聴させ、さらに実験データを仮想的に提示し分析を行わせるなどの取り組みを行って対応したことは高く評価できる。COVID-19後においても演習・実習科目のオンライン化を継続・推進していくのであれば、対面授業とオンライン授業とで学習効果の優劣に対する厳密な評価を行ったうえで取り組むことに期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

Ⅲ 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築し PDCA サイクルを確立する。	
	年度目標	・FD 委員会を運営し、昨年度から取り組んでいる FD 関連データの充実を図る。特にデータの取捨選択を適切に行う。	
	達成指標	・集約した FD 関連データに対して、FD 委員会等において判定されるそれらの適切性。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	今年度は左記年度目標の達成の前段階として、各教員がまずオンライン授業等の設計と運用に関し、常に PDCA サイクルを回して頂く必要があり、FD 委員会等で学部全体での FD の推進という段階までは達成できなかった。しかしながら動画教材を用いた授業参観等は一部で行われており、また FD 関連データは別途集約し、学科主任レベルで閲覧可能とした。
		改善策	次年度においては 2020 年度に蓄積された FD 関連の各種の授業や実習の技法などについて FD 委員会など適切な場においていったん集約などを行い、今後の学部としての FD 活動に資するべく施策する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		年度目標の要点は「FD 関連データの充実を図る、特にデータの取捨選択を適切に行う」であった。これに対して、FD 関連データが集約されて学科主任レベルで閲覧可能とされた。よって、年度目標は一定程度達成されたと判断でき、B 評価は妥当であると判断できる。	
改善のための提言	これまでに蓄積された FD 関連の知見の活用法を検討し、PDCA サイクルの確立を目指す。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。	
	年度目標	・学部カリキュラムポリシーに対する 2019 年度開始の新カリキュラムの整合性を点検する。	
	達成指標	・点検結果に基づいて、カリキュラム・授業体系と学部カリキュラムポリシーとの整合性が確認できること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	2019 年度開始の新カリキュラム（2 年目）であり、各学科ごとの 2 年生の累積 GPA 値の推移について、可視化を行った上で、学科主任レベルにて展開し、各カリキュラムポリシーとの整合性、単位取得の困難さ等について評価できるよう情報を共有した。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
所見		年度目標の要点は「学部カリキュラムポリシーに対する新カリキュラムの整合性を点検する」であった。これに対して、2 年生の累積 GPA 値の可視化や、その評価のための情報共有の仕組みなどが整理された。よって、A 評価は妥当であると判断できる。	
改善のための提言	コロナ禍による作業の負担増に適応したカリキュラムポリシーに関する確認体制を整備する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・留年・休学・退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。	
	年度目標	・新カリキュラムにおける教育課程と学習成果の関係性を、留級・休学・退学者数等に着眼し測定する。 【新型コロナウイルス禍の収束状況等にもよるが、状況が許せば以下も目標とする。】 ・相互参観について、兼任講師担当科目での実施程度を把握する。	
	達成指標	・それぞれの測定値を可視化し、学部内等で共有していること。 ・兼任講師担当科目での授業相互参観の全体に対する割合等。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	留級率の推移を理工学部発足の2008年度以降、継続してデータ化し蓄積している。一方、年度目標の後段に挙げた授業の相互参観については、コロナ禍に鑑み、高い実施割合を求め、実施の程度については把握しており、3月半ばを目途に学部内で共有予定である。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	年度目標の要点は「教育課程と学習成果の関係性を留級・休学・退学者数等に着眼して測定する」であった。これに対して、留級率のデータが着実に蓄積されており、A評価は妥当であると判断できる。また、「相互参観」に関する年度目標については、今年度のコロナ禍の状況を踏まえると、流動的であったことは避けられなかったと判断できる。
		改善のための提言	コロナ禍においても教員による相互チェックが効率的に実施できる体制を整備する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	年度末報告	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。
		年度目標	・4年間のカリキュラムの学習成果として学位が授与されることに鑑み、新カリキュラム2年目である本年度は特に2年次生までの学習成果について把握する。
		達成指標	・必修科目の単位修得率等を計測し、学部内等で共有すること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	各種成績データを、本項目に沿って処理する事務部への負担増も考慮し、今年度は単位習得率の計測の代わりに、累積GPA値での計測・可視化を試みることにした。結果はデスクトップ上で学科主任レベルにて共有している。
		改善策	2019カリキュラムにおける必修科目の単位習得率の計測については2021年3月時点で可能であることから、追加的に調査し、共有を次年度に繋げる。
		所見	年度目標の要点は「特に2年次生までの学習成果について把握する」であった。これに対して、コロナ禍による事務部の負担を考慮して、累積GPA値による学習成果の可視化が試みられた。よって、年度目標は一定程度達成されたと判断でき、B評価は妥当であると判断できる。
	改善のための提言	必修科目の単位習得率の効率的な調査法を検討し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムが実現されているかを効率的に確認する手法を構築する。	
	No	評価基準	学生の受け入れ
5	年度末報告	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
		年度目標	・入学経路（入試方法）については継続的に検討する。 ・指定校推薦について、適正な高校の選定を行う。
		達成指標	・検討の中間報告、結果等が教授会等で共有されること。 ・新型コロナウイルス禍が入試に影響を与えると思われるため、特に指定校推薦枠を慎重に設定すること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	コロナ禍中の指定校推薦制度において、一般受験を避ける志望者が特定の学科に集中する危険性に鑑み、指定校の選定をより厳選した上で、志願者には第2希望学科まで記入してもらうと共に、対面での面接試験を行ったところ、混乱なく志願者増で終えることができた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		所見	年度目標の要点は「入学経路について継続的に検討する」及び「指定校推薦について適正な高校の選定を行う」であった。これに対して、指定校の選定をより厳選した上で第2志望まで志望学科を受け付けるなどの対応をし、その結果、志願者増となった。同対応が志願者増につながったことにより、年度目標は大いに達成されたと判断でき、S評価は妥当であると判断できる。	
		改善のための提言	引き続き、中長期目標の高いレベルでの達成を目指す。	
No		評価基準	教員・教員組織	
6		中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 年齢構成を適正化する。 教育研究支援体制を確立する。 	
		年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成の改善を図る。 人的な研究支援体制の増強の可能性について検討する。 	
		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用時に年齢をも考慮し、高齢者に偏らないような分布としていくこと。 検討の中間報告や結果等が教授会等で共有されること。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	後任人事については、2020年度末での学部専任教員の平均年齢、56.65歳から、2021年度では、55.34歳となり改善される見込みである。また、女性教員比率も百分率で5ポイント以上の改善となる。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	年度目標の要点は「人事に際して適正な採用を行いつつ、年齢構成の改善を図る」及び「研究支援体制の増強について検討する」であった。これに対して、教員の平均年齢の低下と女性比率の向上が達成されており、S評価は妥当であると判断できる。		
	改善のための提言	教育研究支援体制の確立も目指しながら、中長期目標の高いレベルでの達成を引き続き目指す。		
No		評価基準	学生支援	
7		中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対するサポート体制を充実させる。 	
		年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラム2年目であり、旧カリキュラムから進級基準が変更となっている学科も多く、特に留級者数について計測・分析する。 【新型コロナウイルス禍の終息状況等にもよるが、状況が許せば以下も目標とする。】 状況に応じてラーニングサポーター制度の活用を図る。 	
		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 留級率等のデータの共有、可視化がされていること。 新型コロナウイルス禍の収束状況に応じた実施検討と実施した場合の効果を把握すること。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	留級率のデータの共有(学科主任を通して閲覧可)と可視化についてはデスクネット上にて更新しており、実施されている。ラーニングサポーター制度についても各教員・各学科の判断により実行され、5学科合計で57名を雇用して活用がなされた。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	年度目標の要点は「特に留級者数について計測・分析する」及び「ラーニングサポーター制度の活用を図る」であった。これに対して、留級率のデータの共有・可視化が進められ、またラーニングサポーターも積極的に活用された。よって、A評価は妥当であると判断できる。		
	改善のための提言	コロナ禍に対応した学生サポート体制を引き続き充実させる。		
No		評価基準	社会連携・社会貢献	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。		
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、法政科学技術フォーラムへの出展等に協力する。 ・状況に応じて、理系同窓会と連携したイベントを開き企業と教員及び学生との連携を図る。 		
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス禍の収束状況に応じた対応とならざるを得ないが、実施となった場合の出展数等を適正にしていること（法政科学技術フォーラム・理系同窓会連携イベントなど）。 		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	今年度も法政科学技術フォーラムに学部として参加し、オンライン・オンデマンド動画での展開となった。各学科から1件の出展と特別講演を担当した。現在も動画はアーカイブとして視聴可能であり、これはコロナ禍での思わぬ副産物となった。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		年度目標の要点は「法政科学技術フォーラムへの出展等に協力する」及び「理系同窓会、企業、教員及び学生の連携を図る」であった。これに対して、法政科学技術フォーラムに学部として参加するなど、年度目標はかなりの程度達成されたと判断でき、A評価は妥当であると判断できる。		
改善のための提言	理系同窓会との連携をより一層深める。			
<p>【重点目標】 新型コロナウイルス禍の収束状況等にもよるが、2019年度からの新カリキュラムが教育課程・学習成果の観点から適正に運用されていること。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 状況の把握のために、関連するデータ（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）を収集、可視化し学部内で共有することを目指す。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 FD活動を教授法の改善、という意味合いで捉えたとすれば、多くの教員が自ら手探り状態で開始することとなったオンラインでの教授法について、独自に工夫することが自然に求められる状況となった。学部執行部としては、春学期終了後に授業実施上の気づきなどを問うアンケートを行い、以後の参考にすべくとりまとめ、結果を所定の委員会にて検討後デスクネットを利用して共有化を行った。一方、コロナ禍において入学者数の確実な確保も重要な点であったが、一般入試を敬遠する傾向も伺えたため、指定校推薦による志願者増を見込んだ独自の施策を行い対応できた。2019年度開始カリキュラムの経年評価については今後も関連するデータを積みながら進めたい。現況では特段留級者が増加するというような傾向はみられていない。社会とのかかわりについてもコロナ禍にあって収録動画主体のオンラインでの活動となったが、却って理系学部としての広報活動面では好ましい結果となったと思われる。</p>				

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

理工学部は、カリキュラム改定から2年目にあたり、カリキュラムが計画通り運用されて期待された学習面での成果が得られているかをチェックする時期にコロナ禍に見舞われたが、各種指標の可視化を継続して行い、当面の目標は達成されたと評価できる。コロナ禍による影響を抑えるために、従来とは異なる形で工夫した取り組みで継続を維持した点も評価できる。達成状況の学科間のバラつきが平坦化されるような計画立案と実行を期待したい。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築しPDCAサイクルを確立する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果に関連するデータの活用法について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの学習成果の指標の選定とPDCAサイクルへの取り込みの適切性。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂から3年目となる2019年度カリキュラムの、カリキュラムポリシーとの整合性について点検する
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・点検を行ったカリキュラム適切性の、次の新カリキュラム改定作業への参考情報として蓄積されること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年、休学、退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現行カリキュラムにおける教育課程と学修成果の関係性を、留年、休学、退学者数などに着目し引き続き把握する。 ・教員による相互授業参観について、授業の収録動画等の利用も引き続き行う。 ・新任教員（兼任・専任）の授業の相互参観についても学科の判断に基づいて実施を進める。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・測定結果を可視化、把握し学部内等で共有をしていること。 ・2021年度に新任となる兼任教員担当科目での相互授業参観の実施件数など。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂から3年目となる現行カリキュラムについて3年次生までの学習成果について把握する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目の単位習得率等を計測し、学科、執行部レベルで共有すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーの下で編入学による学生受け入れの可能性について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・検討の中間報告、結果等が教授会等で共有されること。
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢構成を適正化する。 ・教育研究支援体制を確立する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成等の改善を図る。 ・人的な研究支援体制の増強策の検討を進める。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用時に年齢等をも考慮し、バランスが改善されること。 ・研究支援体制検討の中間報告や結果などが教授会等で共有されること。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に対するサポート体制を充実させる。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタル面に関するサポート策を検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート内容と実施成果の把握を学部内で共有できること。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況に応じて、法政科学技術フォーラムへの出展に協力する。また、理系同窓会と連携したイベントの展開についても検討を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・左記イベント等への出展数等を適正にしていること。
<p>【重点目標】</p> <p>当学部では概ね、4年に一度の周期でカリキュラム改定を行っている。次のカリキュラムの検討に資することも見越し、現在の学習成果とカリキュラムの適切性を把握するとともに、編入学生の受け入れについて検討を開始する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>学習成果の定量的な把握（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）を引き続き収集、分析、可視化するなどを行い検討に利用する。また、編入学生を受け入れることとなった場合のカリキュラムの構成についても学部内カリキュラム委員会等で検討を行う。</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

理工学部の 2021 年度目標は、進行中のカリキュラム改定に伴う学習成果の把握、点検および活用法の検討が中心となった年度目標であり、PDCA サイクルを回すための活動として評価できる。PDCA サイクルについて、Plan, Do, Check については指標等の見える化に努力されていると認識できるが、Action についての見える化についても得られた情報を基に今後のカリキュラム改定に生かしていくことを期待したい。

【大学評価総評】

理工学部では 2019 年度に行われたカリキュラム改定後の活動として、継続して学生の学習成果の把握や適切性の検討が行われている。カリキュラムの流れや体系を可視化するとともに、コース制を設けて履修モデルを提示することによる学びの体系化、入学時プレースメントテスト結果による要学力補強学生に対するリメディアル科目履修の推奨、オフィスアワーを利用した履修指導など学習成果向上のための取り組みが継続して行われていることは評価できる。一方で、高学年学生に対しては、各教員による少人数のゼミや卒研指導にゆだねられている部分が多く、学部として向かうべき方向の徹底や具体的な達成度の把握が十分な精度で行われているかの点検が課題になる。学生の学習成果の把握は GPA を中心に行われているが、学科間でのばらつきの影響評価が欠かせないことから、学科間でのばらつきに影響されない新しい指標の導入も検討されるべきであろう。年度目標の達成指標に「情報の蓄積や共有」といった記述が目立ち、指標データの収集・蓄積に終始しているように見える。蓄積された指標などがどのように活用されたのか、PDCA の Action の見える化を達成するためにどのように改善していくのかを示していく必要がある。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。